沖井委員（自民会議）

平成27年３月３日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）「学びの変革」における「コンピテンシー」と県民の理解について

昨年１２月，県は新たな教育モデルの構築を目指し「学びの変革」アクション・プランを策定した。

そのサブタイトルは「コンピテンシーの育成を目指した主体的な学びの充実」である。「コンピテンシー」は，アクション・プランの用語解説には「単なる知識や技能だけでなく，態度などを含む様々な社会的なリソース（主体性・積極性・協調性・協働力・回復力）などを活用して，さまざまな要求課題に対応することができる実践能力や行動特性」とあるが，耳慣れない言葉である。

「学びの変革」は，県民への理解推進が試みられるそうであるが，県民への説明の際，「コンピテンシー」という言葉をそのまま用いると，「学びの変革」が，高度なことに取り組む印象とともに，難しい印象を与えると思われる。また，県民の共通認識が得られにくくなる懸念もある。「実用的な力」というような，分かりやすい言葉に置き換えて説明する方が良いのではないかと思う。

そこで，「コンピテンシー」の意味についてどう捉えているか，教育長に伺う。

（答）

「コンピテンシー」という表記につきましては，文教委員会の集中審議における，「できるだけわかりやすい表現に」との御指摘を踏まえ，アクション・プランの中では，「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力」といたしまして，併せて，「単なる知識や技能だけではなく，態度などを含む様々な資質・能力を活用して，様々な要求，課題に対応することができる実践的な力」という説明を加えているところでございます。

広島版「学びの変革」アクション・プランは，グローバル化が急速に進展する中において，変化の激しい社会をたくましく生きていくことのできる資質・能力，具体的には，生涯にわたって学び続ける力を全ての子供たちに育成することを目的とするものであり，県民の皆様には，こうした説明を丁寧

に行い，広島県が進めるこれからの新しい教育の方向について，御理解いただけるよう努めてまいります。